HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | アニメファンの『第2のふるさと』に |
| Author(s) | 山村, 高淑 |
| Citation | 月刊北國アクタス, 23(10), 15-15 |
| Issue Date | 2011-09-20 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/52959 |
| Type | article |
| File Information | hokkoku.pdf |

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

# アニメファンの「第2のふるさと」に

北海道大学観光学高等研究センター
山村高淑（たかよし）准教授

アニメは地域の魅力を有効に伝える媒体だ。観光パンフレットから伝わらない歴史や人いきれ、生活習慣のようなものが、身近な物語を伴って表現されている。好きなキャラクターが、周囲の人や環境とかかわりながら暮らす世界が実際にあるのなら、行ってみたいと思うのが人情だ。

旧来型の観光地は画一化が進み、お仕着せでどこか魅力に乏しいという若者が増えている。聖地巡礼現象は、見せかけだけでなく、深い部分で共感できる場所を求めている意識の表れと言える。このことは、アニメに限らず、現在転換期に来ている観光誘客のあるべき方向性を示しているのではないか。

一部に強い支持を受けるアニメでは、ファンの意識の中に「自分たちの作品」という部分がある。巡礼でも、おみやげ物を買って帰るだけでなく、何かを残したいという思いも強い。聖地とされた地域の人は客としてもてなすことに加え、ファンが活動できる場所を提供しなくてはならない。巡礼ノートや絵馬掛け、ファン参加型のお祭りなど、成功した地域ではさまざまな取り組みを行っている。

## 地域に対する敬意伝わる

「花咲くいろは」は風景の書き込みが丁寧で、主人公が地域の仲間や環境に支えられて成長するストーリー展開も、地域にとってマイナスになる書き方をしていない。南砺市を舞台にしたアニメ「true tears（トゥルー ティアーズ）」など、ピーエーワークスのほかの作品でも言えることだが、地域に対する敬意と愛がこもっている。

これは、地元に根ざして活動している制作会社であることが大きいだろう。都会の人たちはふるさとを求めている。同社の作品は人間本来の温かみが残っている場所を選んで描いており、それが都会のアニメファンを引きつけているのだろう。彼らが「第2のふるさと」と感じることが積み重なって、本当の意味での「聖地」となっていくのだと考えている。